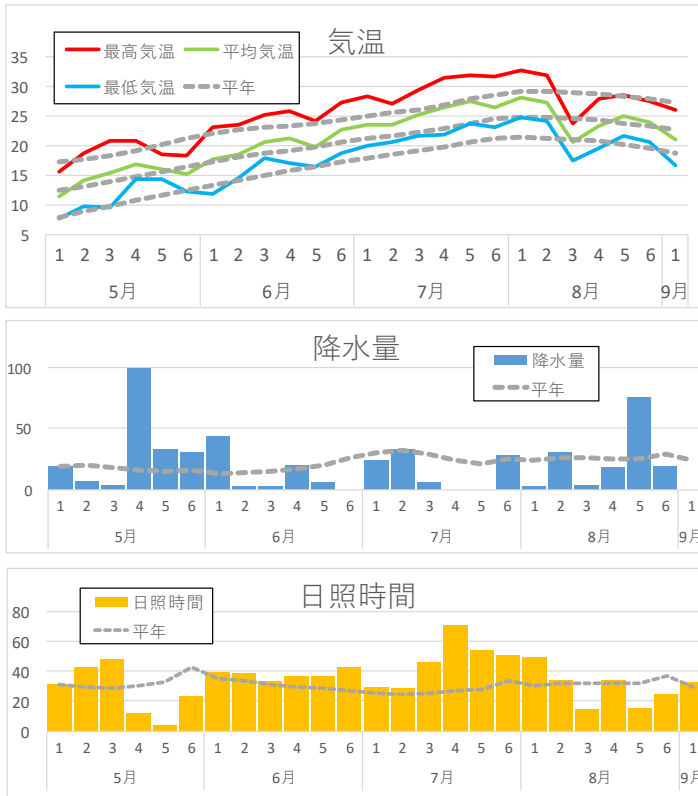


# ほ場ごとの刈取適期を確認しましょう

## 農作業事故に注意しましょう!

### 1 気象経過と生育状況

これまでの気象経過 (アメダスポイント: 能代)



#### 【気象経過】

生育期間中の気温は、田植え後の5月下旬が平年と比べて低かったものの、その後8月2半旬までは高く推移しました。しかし、8月3半旬に急激に下がり、その後は平年並みからやや低く推移しています。

降水量は、5月後半が多く、5月4半旬と8月5半旬に大雨が降ったものの、6月から7月にかけては少雨傾向で推移しました。

日照時間は、5月後半がかなり少なかったものの、6月から7月にかけては多照傾向で推移しました。8月3半旬からは平年並みから少なく推移しています。

#### 【生育状況】

成熟期の管内水稻定点調査ほ(9地点、品種:あきたこまち)の平年と比べた生育は、稈長・穂長が長く、一穂当たりの着粒数も多くなっています。また、穂数は多くなり、有効茎歩合は低くなりました。9月7日現在では倒伏程度は平年よりもやや小さいものの、稈長が長いこと今後の降雨などによっては倒伏が進むと予想されます。

#### ○定点調査結果(9月7日までの調査結果より)

	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	有効茎 歩合(%)	着粒数		倒伏程度 (0~5)
					(粒/穂)	(粒/m <sup>2</sup> )	
本年	85.3	18.6	446	80.6	79.3	35,439	0.2
平年	81.6	17.9	447	82.7	75.1	33,570	0.5
前年	84.3	17.7	450	81.1	77.7	34,965	1.3
平年比較	105%	104%	100%	-2.1	106%	106%	-0.3
前年比較	101%	105%	99%	-0.5	102%	101%	-1.1

※平年は過去10カ年の9月15日現在の平均値

## 2 刈取適期の判定

○管内の出穂盛期（50％）は平年より4日早い7月30日でした。積算気温による刈取目安によると、あきたこまちの場合、出穂期が7月30日であれば9月8日には出穂期からの積算気温950℃を超えている状況となります。

○実際の刈取適期は、収量（着粒数）や施肥体系等によっても前後しますので、出穂期からの積算気温を参考として、最終的な刈取時期の決定は、各ほ場の籾の黄化程度を確認し、黄化程度が90％に達した時期で判断してください。

○今年は出穂期が早まったため、籾の成熟は平年に比べてかなり進んでいると見られます。刈り遅れによる品質低下（特に胴割米の発生）に注意しましょう。

### ○積算気温到達日予想

出穂期	950℃	1,050℃	1,150℃
7月27日	9月4日	9月9日	9月14日
7月30日	9月8日	9月13日	9月18日
8月2日	9月12日	9月17日	9月22日
8月5日	9月16日	9月22日	9月27日
8月8日	9月21日	9月26日	10月2日

※アメダス能代データ。9月10日以降は平年値を使用。

### 【刈取適期の判定基準】

#### ①籾の熟色

葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90％（黄色＋黄白色の籾数の割合）の頃

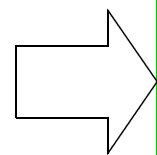
#### ②出穂後の日数

早生種：あきたこまち等・・・・・・・・出穂後45日頃  
中晩生種：めんこいな・ゆめおばこ等・・出穂後50日頃

#### ③出穂後の積算気温（出穂期翌日から日平均気温を積算した値）

早生種：あきたこまち等・・・・・・・・950～1,050℃  
中晩生種：めんこいな・・・・・・・・1,050℃  
ひとめぼれ、ゆめおばこ等・・・・1,050～1,150℃

刈取時期決定



## 3 収穫～調製の留意点

○収穫時の籾水分は25％以下が望ましいため、作業時間帯は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃に設定しましょう。

○米選機の網目は1.9mmを基準とし、整粒歩合80％以上の高品質米を目指しましょう。

- 秋の農作業事故に注意しましょう！（秋の農作業安全運動9月10日～10月20日）  
秋の農作業はコンバイン操作や籾の搬送作業等での事故が多くなります。計画的な作業に努め、十分な休憩を取って事故の無いように注意しましょう！
- 稲わら等は有機物資源として有効活用しましょう！  
稲わら焼きは県条例で原則禁止されています。特に、周辺に影響が出やすい10月1日～11月10日までの間、全面的に禁止しています。

不明な点がありましたら、山本地域振興局農林部農業振興普及課（TEL52-1241）までご連絡ください。